

公益社団法人京都染織文化協会

令和5年度事業計画

<基本方針>

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれている。当協会では、染織に関わる所蔵資料やネットワークを通じて、あらゆる方法により一般社会に広く啓発することで染織文化・染織技術への理解と関心を深め、次代に継承していく。

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■「染織祭」の詳細調査並びに公開(継続事業)

昭和6～26年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」について北野裕子氏(龍谷大学 非常勤講師)に依頼して詳しく調査を行い、その成果を展覧会や当協会ウェブサイト並びにフリー百科事典『Wikipedia』で情報公開すると共に、学術研究機関への論文投稿、ウェブサイトでのコラムなどを通して染織祭並びに染織大国・京都の認知を広げる。

<今年度調査>

史料からみる調査

- ・行政・関連団体・企業などの史料調査
- ・衣装制作に携わった人物調査(文献、研究者等)

収蔵品からみる調査

- ・衣装並びに道具類(髪飾り・太鼓・軸等)に関する調査

■衣装台帳のデータベース化(継続事業)

当協会が衣装と共に所蔵する143領分の台帳は、すべて手書きで作成されているため、内容や画像をデータベース化して端末上で管理することで利便性を図る。

<今年度作業>

検索フォームの作成並びにデジタル台帳の運用開始

■染織祭関係史料の公開(継続事業)

当協会が保管する染織祭関係史料データをウェブサイト上で公開する。

<今年度事業>

- ・会議資料1件(昭和14年以降 染織講社)

- ・庶務資料 1 件(昭和 14 年 染織講社)

■染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査（継続事業）

当協会所蔵の全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容をウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏め、順次公開する。

※染織祭衣装は平成 29 年度をもって全て公開済。

<今年度対象資料>

「全国染織産地合同制作布地」約 10 点

■染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作（継続事業）

◎補修・修繕

当協会が設定する「傷みの 5 段階評価」に基づき、評価 4（複数個所に著しい傷み、汚れがあるが修理可能な状態）の衣装を中心に依頼先と協議の上着手する。

（対象衣装）

鎌倉時代 9 号「桂」（令和 2 年度より継続）

（依頼先）

松下装束店（京都市中京区）

◎レプリカ制作

制作から約 90 年経つ染織祭衣装 143 領は、殆ど全ての衣装に著しい経年劣化が見られるが、その中でも「高度な技術が使われており、特に劣化が著しいもの」または「技術の衰退が著しく、近い将来復元制作が出来ない技術が使われているもの」に限定し、レプリカの制作に着手する。また制作工程を動画撮影し、その詳細をウェブサイト「インターネット染織講座」にて公開する。

（対象衣装と今年度作業）

- ・江戸時代初期 2 号「白縮緬地竹垣団扇文様振袖」（後記参照）制作（2 年計画の 2 年目）

※令和 4 年度（一財）京都染織会館助成金交付・令和 5 年度同助成金申請予定

- ・令和 6 年度以降の制作衣装選定

（協力先）

京鹿の子絞振興協同組合／京都府織物・機械金属振興センター

■染織祭衣装に関する展覧会協力

◎京鹿の子絞振興協同組合主催「京鹿の子絞工芸展」への出品協力

会 期 令和5年8月25日(金)～27日(日)
場 所 京都市京セラ美術館(左京区岡崎成勝寺町)
出 品 室町時代 新旧衣装

■染織資料並びに画像貸付協力

美術館、出版社等の要請に応じて衣装現物や画像の貸付協力を行う。

【染織祭衣装貸付】

- ・公益性のある美術館、博物館等を対象に貸付。
- ・染織祭衣装については返却後メンテナンス作業が伴うため、貸付期間に関係なく、1領につき1万円のメンテナンス料を徴収する。

【染織祭衣装画像貸付】

- ・染織文化・染織技術を啓発する当協会の目的に合った内容の出版物や番組等を対象に無償で貸付ける。

■染織技術復興に向けての取組みの検討

全国には過去制作され現在では廃れて継承が途絶えた染織技術が数多くあり、近年その技術を復興させようという動きが各地で起こりつつある。当協会において技術面等からの復興支援を行い、染織技術の継承と豊かな染織文化の提案を行う。

「染織技術等継承事業」

■染織技術啓発のための小冊子の配布（幼児～小学生）（継続事業）

きものや染織技術について簡単に解説した小冊子を、七五三詣りなどの着用機会にあわせて配布する。

■染織技術等に関するセミナーの開催（大学生・専門学生～一般）（継続事業）

- ・「第1回染織文化セミナー」（11月頃予定）
- ・「第2回染織文化セミナー」（3月頃予定）

■web上での公開講座（一般）（継続事業）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、ウェブサイト上でミニ講座の動画配信を行う。

（ミニ講座）「きものの歴史」シリーズ／「衣装レプリカ制作工程」シリーズ

(方 法) 1回の講座は10分迄とし、動画をインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードして当協会ウェブサイトリンクを貼り閲覧を促す。

「染織技術等継承に関わる助成事業」

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取組みを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

2. 会員事業

「知識啓発事業」

■セミナーの開催

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化やマーケティング等、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。

■主要展覧会への招待

会員の知識普及を目的に、京都市内並びに近郊で行われる主要な展覧会の入場券を年2回会員に送付し、観覧を促す。

「染織業界発展事業」

■京都プレス事業（継続事業）

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発を行い、各社にその情報をフィードバックする目的で取り組んでいる。今年度もキュプラにシルクをカバーリングするオパール糸の開発に引き続き取り組むとともに、家蚕糸と野蚕糸との交織によるオパール加工の織物制作を行う。

■会員のための助成事業

歴史ある染織技術を継承し、発展することを目的とした当協会会員の事業助成は、令和元年度末に行った資産取崩の影響から脱却していないため、今年度も中止とする。

■ 染織技術の復興に関する情報提供並びに市場提案

公益事業で行われる染織技術復興事業の成果に基づき、産地の掘り起こし並びに商品開発の一助となるよう会員に情報提供を行う。

令和5年度 染織祭衣装レプリカ制作衣装

江戸初期2号「白練緯地竹垣団扇文様振袖」(生地：縮緬 技術：手描友禅、墨描絵、金彩、刺繍)

※令和4年度より継続事業

